

8 肉用鶏農家におけるニューカッスル病ワクチン 飲水投与方法の改善指導

中丹家畜保健衛生所

○加味根あかり 岩間仁志

【はじめに】肉用鶏へのニューカッスル病（ND）生ワクチンの投与方法として、飲水投与方法が広く用いられている。今回、NDワクチンの効果が十分認められない農家に対して、飲水投与方法の改善指導を行った。【方法】9万羽飼養の肉用鶏農家1戸を対象とし、抗体価が上がらない要因として、①群全体が均等に飲水できていない可能性、②ワクチン投与時期の2点に着目した。①については、ワクチン溶解水を着色することで各個体の飲水状況を目視で確認し、均等に飲水させる方法を検討した。②については、7または10日齢での1回投与、及び2回投与（7、21日齢）の3群を設定し、35日齢時点の平均HI抗体価（GM）を比較した。【結果】抗体価がばらつく原因の1つとして、鶏舎内水管の水抜きが不完全なために水管末端までワクチン水が行き渡っていない事が明らかとなり、改善指導した結果、抗体価8倍以上を保有する鶏の比率は85%から95～100%に上昇した。また、ワクチン投与時期の異なる3群全てにおいて十分な抗体価の上昇が認められた（GM：7日齢投与群49.6倍、10日齢投与群18.4倍、7及び21日齢2回投与群17.4倍）。【まとめ】今回の結果より、鶏群全体に均等にワクチン接種することで、1回投与でも十分なワクチン効果が得られることが示唆された。